

グローバル教養学部

【2024 年度大学評価総評】

法政大学グローバル教養学部は、英語で諸講義を学ぶことを通して多文化共生社会のための未来のグローバルリーダーを養成するという目的を掲げており、特色が非常に鮮明な学部である。この目的に応じて、2023 年度以降、新カリキュラムの策定および運用、入試改革、社会貢献にも資する産学連携組織（GGLI）の設置、海外大学院進学を支援するプログラム GSAS の開始などの具体的な取り組みを多く実行している点が、高く評価できる。学生の受け入れに関しては、学部長の付属校訪問で得た知見を今後の入試改革や、付属校生の入学後学習の支援に役立てようとして計画している点が評価される。大学全体として学修成果可視化システム（HaIo）を組織的に活用していきたいという点に関しては、学生定員が小規模なために既存のシステムで教育的分析が可能という理由が認められるが、活用可能性の検討を今後も継続し、成果を示すことが求められよう。一方で、学部独自の学習成果の把握や評価等に係る諸施策等の成果については評価に値する。また、教員組織にかかる取り組みについては、特に兼任講師を交えて生成 AI の活用に関する意見交換も行われ、具体的な施策がなされていることが評価できる。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部ウェブサイト (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/rinen/) ・ 学部長メッセージ (https://www.hosei.ac.jp/gis/82488/) ・ 学部紹介動画 (https://www.youtube.com/watch?v=mxZiNYyzRTU) ・ 学部パンフレット (https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=3942400-0-91&cs=1) ・ 東進ハイスクールタイアップ動画 (https://www.youtube.com/watch?v=CCNXr8PTMVk) ・ ウィリーズ英語塾によるインタビュー (https://www.hosei.ac.jp/gis/pickup/article-20231113172708/) ・ 各ポリシー (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/policy/) ・ 学則 (https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/gakusoku/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54) ・ 父母懇談会で配布した資料 ・ GIS オープンデーで配布した資料 ・ 高校訪問で配布した資料 	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質

保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学 GIS（グローバル教養学部）教授会規程 規定第956号 ・委員会リスト 	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/policy/diploma/) ・カリキュラムポリシー (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/policy/curriculum/) ・カリキュラムマップとカリキュラムツリー— (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/curriculum/curriculum-map-and-curriculum-tree/) ・カリキュラム overview (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/curriculum/overview/) 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024) ・2024年度 GIS 履修の手引き ・カリキュラムマップとカリキュラムツリー— (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/curriculum/curriculum-map-and-curriculum-tree/) 	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024) ・シラバス第三者チェック ・2024年度GIS履修の手引き (https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MzM2MjJjcsImNhdGVnb3J5J5TnVtIjo20DE3fQ==&pNo=1) ・カリキュラムマップとカリキュラムツリー— (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/curriculum/curriculum-map-and-curriculum-tree/)・ ・オリエンテーションにおける教員による説明資料 ・Teaching in GIS（兼任講師への説明資料） ・履修者リスト ・各教員ゼミページのゼミ論文のタイトル (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/seminars/seminars/) ・ゼミ合宿申請書 ・ゲストスピーカー招聘申請書 ・学生の英語力に基づくアカデミックスキル科目のクラス分け 	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php?nendo=2024) ・シラバス第三者チェック ・2024年度GIS履修の手引き ・ディプロマポリシー (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/policy/diploma/) ・卒業判定（2024年8月23日（執行部会議）秋学期入学生卒業判定・9月4日教授会承認）2025年2 	

月 19 日（春学期入学生卒業判定）（予定） ・ Teaching in GIS

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	
授業改善アンケート入学前アンケート及び卒業生アンケート結果については教授会において必ず共有するとともに教育の質的改善に関する議論を行っている。また、高い評価を受けた項目については学部のウェブサイト等でプレスリリースとして公表している。	

基準 5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッションポリシー (https://www.hosei.ac.jp/gis/shokai/policy/admission/) ・ 入学試験ガイド ・ 入試要項 ・ 総合型選抜（自己推薦入試）書類選考ガイドライン ・ 配慮申請：執行部による対応 ・ 全学オープンキャンパスで配布した資料 ・ GIS オープンデーで配布した資料 	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
入学定員・入学者数・入学定員超過率 https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54	

表 1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90 以上 1.20 未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90 以上 1.20 未満

基準 6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目	はい
---------------------------------------	----

標)」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部に所属する教員の学術データベース (https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm#) ・ 学部に所属する教員のプロフィールが掲載されている学部のウェブサイト (https://www.hosei.ac.jp/gis/kyoin/) ・ 委員会リスト ・ 時間割 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員人事関係内規 ・ 教員昇格に関する内規 ・ 人事委員会<昇格・定年延長> (委員会リスト) ・ 人事委員会<新規採用> (委員会リスト) 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか (補習教育、補充教育、学習に関わる相談等)。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生 (留年者、退学希望者等) に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応 (授業動画の再視聴機会の確保等) を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Reference Room に駐在するアカデミックアドバイザーの存在 ・ Teachingin GIS ・ 成績不振者の定義の教授会承認 (2024年4月24日) と面談リスト (実績) ・ Independent Study 科目の開設 (2024年度GIS履修の手引き) (https://hosei-hondana.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo0MzM2MjcsImNhdGVnb3J5TnVtIjo2ODE3fQ==&pNo=1)	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取	はい
--	----

り組みを行っていますか。	
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションにおける教員説明資料 ・Ethics Advisory Committee の設置と運用（委員会リスト） ・GIS Generative AI Misuse Policy_202404, ・AI Use Policy for instructors_202404 (as your reference to enrich your teaching management) ・Generative AI Digital Ethics Form_202404 	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・GGLI（産学連携組織） (https://www.hosei.ac.jp/gis/gis-global-leadership-initiative-ggli-1/)	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5③学修成果可視化システム (Halo) を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
<p>定員が 102 名という規模を考慮すると、現在の教育学的分析は既存のシステムで十分に対応できているため。しかし、今後は Halo の安定的な運用と更なる機能拡張が期待されるため、その活用方法を執行部会議及び教授会でも模索し、必要に応じて効率的かつ効果的に活用していきたいと考えている。</p>	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）
<p>グローバル教養学部は、全ての評価基準において、適切に運営がなされていると判断できる。また、教育課程・学習成果においては、グローバルリーダーを養成すべく、幅広い分野の科目を提供しているだけでなく、少人数であることを活かした多様な手法によるアクティブラーニングを実施するなど充実した丁寧な教育を行っている点が高く評価できる。そして、さらなる改善・向上のために教員、学生双方の取り組みが充実している点も評価できる。また、学生支援においても成績不審者への個別面談やアカデミックアドバイザーを設置して学生の相談に応じる環境を整備するなど、個々の状況に応じた丁寧な対応を行っている点も高く評価できる。加えて、学生への就職支援として、キャリアセンターとの連携などの取り組みをしている点も評価できる。</p> <p>さらに、新カリキュラムの検討、入試方法の改善など、改善・向上のための取組を継続させている点も評価できる。</p>
【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】
<p>教育課程・学習成果、学習支援、就職支援の取り組みについて評価委員会から高い評価を得た。カリキュラムについては、現行カリキュラム（2019-2023）の課題の可視化とそれらの課題を解決する新カリキュラムを策定した。新カリキュラムは 2024 年 4 月より既に運用を開始している。入試については、2022 年度後半に議論した内容に基づき、総合型選抜において出願条件の大幅な変更を行い 2024 年度入試より実施した。結果、出願者、入学者ともに大幅な増加につながった。また、前述したように学生の</p>

就職支援についても大学評価委員会から高い評価を得たが、2023年度はこれまでの取り組みをさらに拡充し、産学連携組織としてGGLI、海外大学院出願サポートプログラムとしてGSASを発足させた。GGLIでは卒業後、グローバル企業への就職や起業を検討する学生に対して産業界で活躍するGGLIフェローによる講義・講演を5回実施し、GSASでは海外大学院を希望する学生に対してワークショップを5回実施した。今後、GISではこの2つを柱に学生へのキャリア支援を展開する予定である。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<p>・教職員一丸となって、2019-2023のカリキュラム（現行カリキュラム）における課題の可視化を行い、それらの課題を解決する新カリキュラム改革に取り組んだ。まず、カリキュラム委員会内にタスクフォースを設置し、現行カリキュラムについて徹底的かつ集中的に議論した。その議論はカリキュラム委員会や教授会でも共有されると同時にさらに議論を重ね、詳細設定を行った。新カリキュラムは2024年度より運用を開始している。</p> <p>・学生の主体的、効果的な学習方法の理解及び教育改善を目的としたWGを設置し、WG内で議論を行った。議論内容は教授会でも共有され、上述したカリキュラム改革の一助にもなった。</p>		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高める	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）

ための工夫をしていますか。		
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに組み込んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
・2024 年度入試より附属校の外枠数を増やした一方で、附属校における英語教育の実態、附属校生たちの英語力、附属校生の GIS への出願基準に対する認識等について、これまで学部として理解が不足していた。そこで学部長が法政中高及び法政二中高を訪問し、各校長及び生徒と会合を持ちそれらの理解に努めた。その内容は教授会でも共有され、今後、附属校に対する出願基準の見直し及び附属校生の入学後の学習支援等に役立てる予定である。なお、法政国際高校については学部として既に概ね理解していることから 2023 年度の訪問は見送った。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに組み込んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
2022 年 12 月から 2023 年 3 月にかけて総合型選抜（自己推薦入試）の学生の受け入れ方法に関して学部所属する教職員間で徹底的な議論を行った。その議論を基盤として、2023 年春学期に集中的に改善策及び市場に適した入試方法に関する詳細設計を行い、2024 年度入試から新入試を実施することを決定した。決定後は入試センターと蜜に連携をはかりながら、大学ウェブサイト・学部ウェブサイト、大学・学部の SNS だけでなく、予備校の SNS も活用する等、新入試の幅広い周知に取り組んだ。また、6 月には GIS オープンデー（GIS 独自のオープンキャンパス）を開催し、200 人超が参加した。さらに新入試の実施運営にあたっては、公平性の担保と円滑な運営を目的とし、可否基準に関するガイドラインを作成した（なお、2024 年度入試の運営において、多くの課題が散見されたため、今後それらの課題改善に取り組む予定である）。結果、出願者数と入学者数において過去に類を見ないほどの大幅な増加となった。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに組み込んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
・教育改善 WG を設置し、WG 内でアクティブラーニング等をはじめとする効果的な授業方法について議論した。その議論内容は教授会で共有するとともにそれに基づき、教授会構成員間で意見交換を行った。 ・授業における生成 AI の活用における課題と解決方法について、Zoom を活用し兼任講師を含む教員間		

で意見交換を行った。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の研究活動の更なる活性化を期待し、オフィスアワーと同様にリサーチアワーを設定した。 2023年4月、法政GIS内にGGLI (GIS Global Leadership Initiative) という産学連携組織を設置した。2024年3月現在、24人のGGLIフェローが所属している。秋学期には7人のGGLIフェローがGIS生に対して講義や講演を実施した。2024年度には12人のGGLIフェローによる講義を春学期はLeadership and Career Developmentという新たに開講した科目内で、秋学期は2023年度と同様にイベントベースで複数回実施予定である。 GISではGIS関係者(研究者)による研究発表(研究内容の共有)をGIS Talkという名で学内外に発信している。このイベントへの取り組みは、社会貢献だけでなく教員の研究活動への意識向上を目的にしたものでもある。2023年度は5回開催した。 		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	グローバルリーダーとして必要な知識、マインドセット、論理的思考力、批判的思考等の習得を実現する新カリキュラムの施行と海外大学院進学も視野に入れた専門性の高いリベラルアーツ教育を実現する。	
年度目標	左記の目標の実現を可能とする新カリキュラム(2024年度より施行)の策定及び兼任講師、時間割等を含む運営体制を構築する。	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの策定 運営体制の構築 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム委員会においてタスクフォースを設け、1) 現行カリキュラムにおける課題の洗い出し、2) それらの課題の解決を可能とする新カリキュラム(2024年度より施行)案の策定、3) アカデミックスキル科目の再編成及び運営責任者の配置、を行った。それらは、カリキュラム委員会及び教授会の議を経て承認された。 新カリキュラムの策定に伴う科目の廃止・新設に伴い、主にアカデミックスキルを担当する兼任教員の担当科目の見直しと新規採用を行った。 兼任講師を対象とする説明会(3/21)において、新カリキュラムや教育方針等について口頭及び書面を用いて詳しく説明した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムにおける円滑な運用 学部における教育の質を維持向上に資する兼任講師の採用
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>新カリキュラム(2024年度施行)の策定に向けて、カリキュラム委員会が中心となり精力的に議論が重ねられたことは高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特筆すべきは、アカデミックスキル科目の大幅な拡充とその運営責任者の配属である。CEFRを基に入学者の英語到達度を測定し、下位学生には年間8コマのスキル科目履修を義務付ける改革は、確実に英語力の向上につながるであろう。 専門科目の廃止・新設、レベル見直しも的確に行われた。100レベル科目の5分野への類別は、新入生の履修選択に利するところが大きい。 上記改革に関する兼任講師への説明にも十分な機会と時間が確保されていた。
改善のための提言	新カリキュラムの効果的な運用を継続的に点検する必要がある。期待に至らない点があれば、4年を待たず臨機応変に対応をお願いしたい。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	

中期目標	全ての授業形態において、双方向型のアクティブラーニングを推進し、学生の主体的な学びを実現する。	
年度目標	講義レベルや学術分野に見合った双方向型のアクティブラーニングの方法、あり方について、学部内のカリキュラム委員会や別途立ち上げる WG 等で検討する。	
達成指標	・カリキュラム委員会や WG での検討結果	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質保証に関する WG を立ち上げその WG 内において学生に資するアクティブラーニングを含む教育方法について議論した。その議論内容については後日、執行部会議での議論を経て教授会（7/19）にて報告されるとともに教授会構成員による意見交換が行われた。 ・ChatGPT 等、AI 技術の発展による教育への影響及び対応について、兼任講師を含んだ Zoom による FD ワークショップ（7/19）を開催し、意見交換を行った。 ・兼任講師を対象とする説明会（3/21）において、アクティブラーニング等、GIS にて推奨される教育方法等について口頭及び書面を用いて詳しく説明した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・兼任講師に対する GIS の教育方針及び教育方法の共通理解の推進及び浸透 ・引き続き AI 等、最先端技術の発展に伴う効果的な教育方法の検討
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>現職者・新規採用者に対して、GIS の特徴的な教育方法について詳しい説明がなされていることを評価したい。とりわけ以下の 2 点は、カリキュラムの効果的な運営に不可欠な要件である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度以降、特別な事由がある場合を除き、兼任教員も対面授業を原則とすること。 ・ChatGPT の急激な拡がりに即応する、様々な機会での入念な情報交換。
	改善のための提言	AI 技術の発展は日進月歩であり、教育現場での活用と不正使用の防止について、学部の枠を超えた大学全体での議論が急務である。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	4 年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討し、学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。	
年度目標	<ol style="list-style-type: none"> ①各入試経路による英語力/GPA の経年変化について分析する。 ②英語力/GPA と進路との関連性について分析する。 ③その他、学習成果を測定することが可能な新指標を検討する。 	
達成指標	<ol style="list-style-type: none"> ①各入試経路による英語力/GPA の経年分析結果 ②英語力/GPA と最終的な進路先（日系企業グローバル/外資系企業等への就職、起業、大学院進学等） ③新指標の検討結果 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・過去 2 年間の学生を対象にして、入試経路別に英語力と GPA の関連性について分析した。その分析結果は教授会（2/21）で報告され、教授会構成員による意見交換が行われた。 ・英語力/GPA と進路先の関係については、データ化に取り組んでいるが、分析には至っていない。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果をもとにした今後の入試戦略の策定及び入試経路を考慮した教育方法の検討 ・学習成果として、英語力の向上だけでなく、引き続き卒業論文のタイトルをウェブサイトに掲載するとともに、新たな学習成果を測定することが可能な指標についての検討 ・英語力/GPA と進路先の関係について分析を行い、学生の指導やキャリア支援に役立てる。

質保証委員会による点検・評価	
所見	コロナ禍以降、入学者の学習意欲の低下を多くの教員が実感している。入学経路別の英語力と GPA の経年分析はその印象を客観的に裏付ける有用な成果であった。一方、卒業後の進路との関係を捉える試みは野心的ではあるが、就職状況には多様な要因が関わり、分析の難しさは想像に難くない。
改善のための提言	英語力と GPA の相関性について、更なる分析が期待される。例えば、 <ul style="list-style-type: none"> ・4 技能間の関連性：英語能力試験（特に英検）の reading が高得点でも、発信能力（speaking/writing）の低い学生が多いと思われる。 ・GPA の二極化傾向：GPA の高い学生と低い学生との乖離が大きい印象がある。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	①出願者の多様性に対応できる入試方法を常に検討する。 ②入学後のミスマッチをできる限り減らし、安定的な受け入れを実現する。
年度目標	新自己推薦入試の円滑な運用（審査基準の明確化）により、志願者数及び入学者数を確保するとともに AP にマッチする入学者を確保する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己推薦入試の適切な審査基準の設定と明確化 ・志願者数、入学者数の増加（数・率） ・AP にマッチする入学者の確保
教授会執行部による点検・評価	
自己評価	S
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・新自己推薦入試の選考基準に明確な基準を設け、その基準に従って担当教員が適切な審査を行った。 ・高校と学部を繋ぐこと及び学生生活の発信等の役割を担う GIS アンバサダーを 6 月に発足させた。2024 年 2 月現在、GIS 生 13 人が活動。2023 年度の実績は、教員との高校訪問、付属校（法政国際）による学部訪問のアテンド、インスタグラムの運用等。これらの活用により、AP にマッチする学生を確保することが出来た。 <p>（参考）志願者数（昨年度との比較） 自己推薦入試：90→257、一般選抜：444→657、指定校推薦：20→29、付属校推薦：7→14。</p>
改善策	・2024 年度入試における審査基準について、今回の結果を受けレビューを実施し、必要であれば修正を実施
質保証委員会による点検・評価	
所見	GIS オープンデイの開催（6/18）や学部ウェブページの刷新など、積極的な PR 活動を背景に、総合型選抜と一般入試のいずれも大幅な志願者増となった。受験者人口の減少が進む中、求める英語力に妥協することなく、人気を高めた学部執行部と入試担当 WG の取り組みに最大限の敬意を表する。とりわけ出願基準と選抜手順を見直した自己推薦入試は、前年比 2.5 倍を超える学部創設以来の増加幅を記録した。遅滞なく適切に合否審査を行った教職員の尽力も高く評価したい。 加えて、緊密な連携を視野に入れた学部長自らの付属校訪問についても、その意義をここに明記しておく。
改善のための提言	志願者増にも関わらず、入学者が学部の AP に真に相応しいかどうかについては慎重な評価を待たねばならない。受験産業界は理念や教授言語の違いを考慮せず、GIS を単純に「MARCH レベルの国際系学部」として括ることが多いためである。同一分野の科目であっても、教授言語により履修内容が大きく異なる事実を正しく伝える広報が必須である。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するという学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
年度目標	①左記の条件に見合う専任教員について採用（1 名）する。 ②左記の条件に加え、現行及び 2024 年度からの新カリキュラム（2024 年度より）に寄与する（休講科目や新規科目を担当する）兼任講師を採用する。

達成指標	①専任教員（1名）の採用 ②現行及び新カリキュラムに寄与する兼任講師確保に関する進捗状況	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・左記①の条件に一致する専任教員（専任講師）1名を採用し、その教員を新カリキュラムにおけるアカデミックスキル科目の運営責任者とした。 ・新カリキュラムの施行に伴い、兼任講師の担当科目の見直し及び必要な新規採用を行った。
	改善策	・新カリキュラムの適切かつ円滑な運用 ・引き続き、左記②の条件に一致する兼任講師の採用
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究分野と言語能力の点で理想的な専任教員を採用できたことは喜ばしい。アカデミックスキル科目の管理者としても大きな戦力となろう。一方、兼任教員の補填については、残念ながら英語でアクティブラーニングを行うに足りる人材を十分に確保することが叶わなかった。
	改善のための提言	国内での英語学位プログラムの増加もあり、英語力の高い兼任教員の確保が難しくなりつつある。国内外での公募に加え、学会や共同研究の場での積極的なお声がけも一案である。
評価基準	学生支援	
中期目標	①学生の進路・キャリアパスに合わせた支援と指導を行う。 ②成績不良者や英語力の低い学生に対する支援を行う。	
年度目標	①各ゼミにおけるキャリアセンターによる説明会、内定者による就活体験の共有（キャリアフォーラム）に加え、GSAS（海外大学院進路支援サポートプログラム）、GGLI（産学連携組織）を発足させ、学生のキャリア支援を拡充する。 ②定期的に成績不良者や英語力が低い者を洗い出し、面談等を実施する。	
達成指標	①GSAS/GGLI 実施報告（実施日、実施回数、受講人数等） ②対象学生の洗い出し及び面談の報告（リスト、実施日等）	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・GSAS が主催するワークショップを5月～11月にかけて4回開催し延べ42名が参加、GGLI が主催するイベントを10月から12月にかけて5回開催し延べ59人が参加した。それぞれのイベントに参加した者から多くの質問があり、学生のキャリア形成の一助となった。 ・内定者（4年生）が自身の就活経験を1～3年生に対して共有することを目的としたGISキャリアフォーラムを（10/10、10/27）zoomで開催した。 ・英語力の低さ等に起因する成績不良者（GPA1.0以下）11人（春学期5人、秋学期6人）に対して学習支援担当教員が面談を行い、今後の学生生活に対する助言・指導を行った。その様子は教授会にて書面及び口頭にて報告された。
	改善策	・学生のキャリア支援等を目的とするGGLI イベント、GSAS ワークショップ及びキャリアフォーラムにより多くの学生の参加を促進：周知の工夫、GGLI フェローによる講義のカリキュラムへの組み込み等
	質保証委員会による点検・評価	
所見	GSAS は海外大学院への進学希望者を支援するプログラムであるが、著名大学院に備える基礎教育という役割を自らに課すことで、GISの教育の専門性もさらに高まるであろう。外資系・海外展開型企業への高い就職率は、従来からGISの特徴のひとつであったが、GGLIにより、グローバルビジネスの第一線で活躍する実務者から最新の知見を得ることができる。これら二つのキャリア支援企画は国内初と言ってよく、その先進性と発展性は高く評価できる。 成績不良者との個別面談は、有効に機能する例も少なくないものの、面談の要請自体を無視し続ける学生が一定数存在している。支援の在り方がやや形骸化しているという印	

		象を払拭できない。
	改善のための提言	GSAS と GGLI の今後の拡充・発展を、大きな期待をもって見守りたい。 成績不良者の扱いについては、進級規定の厳格化も含め、支援と同時に「強い指導」も時に必要であろう。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	学部の理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
	年度目標	①GGLI（産業界で活躍する人たちをフェローに迎え、フェローによる講義・講演、ワークショップ、パネルディスカッション等を主催する産学連携組織）を通して、学部・学生・産業界の連携及び関係性を構築する。 ②企業等との連携PJの検討 ③学部が主催する学術的な研究会（GIS Talks）を一般公開する。
	達成指標	①GGLI 主催イベント実施報告（実施日、実施回数、参加者数等） ②GIS 生を対象とした企業等と連携PJの検討結果（及び実施） ③研究会の実施報告（実施日、実施回数、参加人数等）
年度 未 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・GGLI 主催のイベント（産業界で活躍するフェローによる講義）を10月から12月にかけて5回開催し延べ59人が参加した。 ・GISTalkは5月～12月にかけて5回開催し延べ64人が参加した。 ・GIS 生を対象とした企業等との連携PJを立ち上げたが、助成金が得られず、実施には至らなかった。
	改善策	・より多くの学生の参加の促進及び学生と産業界で活躍するGGLI フェローとのコミュニケーション機会の増加：GGLI のイベントのカリキュラムへの組み込み及び卒業単位化 ・GIS 生を対象とした企業等との連携PJの検討 ・GIS Talk の継続実施
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	GGLI と GISTalk のいずれも教員と学生の境界を超え、学部と学部外（産業界を含む）の連携を深める有用な企画であることは論を待たない。しかし、参加者数からはその意義が広く認識されているとは言い難い。
	改善のための提言	GGLI のイベントは数ヶ月間に集中していた。年末は就職活動、ゼミ論等で学生も多忙なため、開催時期の調整が必要かもしれない。 GISTalk は講演者の研究分野により、参加者数に差が生じることは致し方ないが、今後も他学部への積極的なPRを心掛けたい。
<p>【重点目標】 新自己推薦入試の円滑な運用（審査基準の明確化）により、志願者数及び入学者数を確保するとともにAPにマッチする入学者を確保する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出願者数の増加を目的とした、①入試変更アナウンスの工夫（多様なチャネルの活用とソーシャルメディア戦略の立案と実行）と徹底、②学部独自のオープンキャンパスの実施、③学生によるアンバサダー制度の導入 ・ミスマッチを減らすための適切な審査基準の設定と明確化を含む新入試の円滑な運用 		
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜の出願者数の増加を目的として、①X（旧 Twitter）、Line、ウェブサイト等を活用し、GISに関する情報を高頻度かつ定期的に発信した。また、②6/18には学部独自のオープンキャンパスを開催し、200人超の来場者があった。さらに、③7月にはGISアンバサダー制度を導入し、アンバサダーによるインスタグラムでの各種情報（学生生活、イベント等）発信を定期的に行った。その結果、総合型選抜における志願者が257人（昨年から2.86倍）となった。 ・学生のミスマッチを減らすために書類選考の審査基準の明確化をはかったことで、APに沿った学生をより効果的かつ効率的に確保することができた。 		

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	グローバルリーダーとして必要な知識、マインドセット、論理的思考力、批判的思考等の習得を実現する。新カリキュラムの施行と海外大学院進学も視野に入れた専門性の高いリベラルアーツ教育を実現する。
年度目標	左記の目標の実現を可能とする新カリキュラムが 2024 年度より開始された。旧カリキュラムと新カリキュラムの効率的かつ効果的な運営に努めるとともに、新カリキュラムにおいて想定した効果が得られるかどうかの点検をカリキュラム委員会等を通して都度行う。
達成指標	・旧カリキュラムと新カリキュラムの効率的かつ効果的な運営
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	全ての授業形態において、双方向型のアクティブラーニングを推進し、学生の主体的な学びを実現する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義レベルや学術分野に見合った双方向型のアクティブラーニングの方法等について 2023 年度に引き続き WG 等を通して議論する。 ・生成 AI 等をはじめとする教育現場に影響を与える技術動向について注視し、学生の学びに資する適切な活用方法を検討する。
達成指標	・カリキュラム委員会や WG での検討結果
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	4 年間の学習成果を適切に測る評価指標を検討し、学部の理念を反映した教育成果の可視化を強化する。
年度目標	<ol style="list-style-type: none"> ①各入試経路による英語力（各技能を考慮）/GPA の経年変化について分析し、今後の入試制度に活かす。 ②英語力/GPA と進路との関連性について分析する。 ③その他、学習成果を測定することが可能な指標を検討する。
達成指標	<ol style="list-style-type: none"> ①各入試経路による英語力/GPA の経年分析結果とそれを考慮した入試制度の検討 ②英語力/GPA と最終的な進路先（日系企業グローバル/外資系企業等への就職、起業、大学院進学等）との関連性の分析結果 ③新指標の検討結果
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<ol style="list-style-type: none"> ①出願者の多様性に対応できる入試方法を常に検討する。 ②入学後のミスマッチをできる限り減らし、安定的な受け入れを実現する。
年度目標	<ol style="list-style-type: none"> ①2023 年度の結果を受けて、新自己推薦入試の全体スケジュール、審査基準、審査方法等に関して再検討する。 ②志願者/出願者/入学者の増加を目的とし、1)既存の高校との関係構築・強化、2) 地方/国外の高校へのアプローチを検討する。 ③定員の充足だけでなく、AP にマッチする入学者の確保に努める。
達成指標	<ol style="list-style-type: none"> ①新自己推薦入試における様々な課題の解決策の提案及び実行 ②入試改革 WG での議論 ③志願者数、入学者数の増加（数・率）及び AP にマッチする入学者の確保
評価基準	教員・教員組織
中期目標	<ol style="list-style-type: none"> ①学部教員の年齢構成や教育分野の多様性、英語による教育・実務能力に最大限配慮しつつ、専任採用人事を続ける。 ②世界基準の教育を提供するという学部理念から、研究業績と英語力を重視した兼任講師の採用を行う。
年度目標	<ol style="list-style-type: none"> ①左記の条件に見合う専任教員（1 名）について、2025 年度初めに国際公募を行うことができるよう、様々な機会を利用して採用準備を行う。 ②左記の条件に加え、新カリキュラムの円滑な運用に寄与する兼任講師を引き続き採用する。
達成指標	<ol style="list-style-type: none"> ①カリキュラム委員会等における多角的な議論 ②新カリキュラムに寄与する兼任講師確保に関する進捗状況

評価基準	学生支援
中期目標	①学生の進路・キャリアパスに合わせた支援と指導を行う。 ②成績不良者や英語力の低い学生に対する支援を行う。
年度目標	①各ゼミにおけるキャリアセンターによる説明会、内定者による就活体験の共有（キャリアフォーラム）に加え、GSAS（海外大学院進路支援サポートプログラム）とGGLI（産学連携組織）という二つの柱を通して学生のキャリア支援を行う。GGLI フェローによる一部の講義をカリキュラムに組み込む。 ②定期的に成績不良者や英語力が低い者を洗い出し、面談等を実施する。
達成指標	①GSAS/GGLI 実施報告（実施日、実施回数、受講人数等） ②対象学生の洗い出し及び面談の報告（リスト、実施日等）
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学部理念と特色を生かした社会貢献・社会連携を推進する。
年度目標	①GGLI を通して学部・学生・産業界間の連携及び関係性の強化をはかる。 ②産業界等と連携したPJを検討する。 ③学部が主催する学術的な研究会（GIS Talks 等）を柔軟に運用することで拡充する。
達成指標	①GGLI 主催イベント実施報告（実施日、実施回数、参加者数等） ②GIS 生等を対象とした企業等と連携したPJの検討結果（及び実施） ③研究会の実施報告（実施日、実施回数、参加人数等）
<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度の結果を受けて、新自己推薦入試の全体スケジュール、審査基準、審査方法等に関して再検討する。 ・志願者/出願者/入学者の増加を目的とし、1)既存の高校との関係構築・強化、2)地方/国外の高校へのアプローチを検討する。 ・定員の充足だけでなく、APにマッチする入学者の確保に努める。 <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>入試改革WGの設置とWGにおける議論</p>	